

令和2年度 第2回学校評議員会 議事録

I 日 時 令和2年 10月 26日 (月) 14:30～16:30

II 場 所 本校会議室

III 出席者 【助言者】

岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化財課 地域学校連携担当

【学校評議員】

A委員 学識経験者

B委員 行政関係者

C委員 地域関係者 1

D委員 地域関係者 2

E委員 地域関係者 3

F委員 PTA関係者

G委員 OB校長 以上 7名



【学校職員】

校長、副校長(3)、事務長、総括教務主任、小学部主事兼地域連携主任(代理: 高学団長)、中学部主事、高等部主事、セレモニー部長、セレモニー部副部長、寮務主任、小学部副主事兼地域連携担当、中学部副主事兼地域連携担当、高等部副主事兼地域連携担当 以上 15名 (欠席: 小学部主事兼地域連携主任 1名)

IV 内 容

1 開 会

(1) 校長挨拶

本日は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課地域学校連携担当任指導主事様に訪問支援としてお越し頂いた。このあと熟議を見て頂きご助言いただく。

今年度の教育活動も半年を過ぎたが、未だに新型コロナウイルスの影響を来している。学校として感染防止策を講じながらできることに様々取り組んでいる。

小学部、中学部が岩手県内沿岸の修学旅行に行くことができた。例年と異なる旅行先となったものの、三陸の自然に触れ、震災後の復興の様子を考えるよい機会になった。

10月31日にこたままつりを開催する。例年と違ったスタイルとなるが、児童生徒の発表を保護者に観覧いただく。まだまだコロナ禍の中での教育活動となるが、アイデアを出し合いながら乗り切っていきたい。

令和2年度コミュニティ・スクールの基盤作りの取組について、地域との連携の様子をスライドを用いながら説明する。高等部は「太田小学校・社会体育館・コミュニティセンターへの出張清掃活動、太田地区の機織り名人招聘」、中学部はJA花巻太田支店婦人部とコラボして28年間目となる「かあちゃん市」、小学部は花の観察から収穫、りんごパーティーまで照井評議員さんにお世話になっている「りんご狩り」、今夏、県道13号線沿いにオープンした道の駅はなまき西南「中・高等部生徒による作業製品の展示販売」と「小学部児童が絵付けしたハロウィンカボチャの展示」、そして、太田地区で盛んな「クubb (KUBB)」に職員チームが交流し親睦を深めた。

今後、ニュースポーツとして魅力的なクubbを学校教育活動の中で太田地区の皆さんに講師になって頂いて子ども達に教えることができれば良いと考えている。



道の駅はなまき西南の販売コーナーは、当初半間のスペースだったが、今は1間に広げて頂き、お陰さまで好評で、売れ行きも好調である。学校評議員さんにカボチャの提供とお取り次ぎをいただいて、待合室に10月中ハロウィンカボチャの展示が実現した。大変有り難いことである。



このように地域の方々との交流を通して、地域の方々との絆も強くなってきたところであり、当初令和4年度から始めようとしていたコミュニティ・スクールを、本校では令和3年度から始めることとした。

2年後の50周年記念事業に向けた準備の説明等をさせていただくが、プレ学校運営協議会として熟議をして頂くとともに、皆様からの提言・助言を今後の教育活動の充実に資する機会としたので、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いに存じます。どうぞよろしくお願い致します。

(2) 事務連絡

- ・配付資料の紹介（太田地区への回覧「こんにちは花清です!」、太田地区振興会「ふれこと」）
- ・会議の流れの確認

(3) ファシリテーター挨拶 G学校評議員

当初は、地域連携主任がファシリテーターを務める予定だったが急遽代役を仰せつかった。これまで地域連携主任は本校の中心となってこの日のために血の滲むような努力を重ねてきた。ピンチヒッターということで力不足で、限られた時間で盛り沢山の内容の熟議を深められるか若干不安だが、皆様のご協力をお願いしたい。



今日の位置付けは、プレ学校運営協議会である。来年度は、学校運営協議会に発展させることについては校長がお話したとおり。コミュニティ・スクールの柱として、50周年事業がある。地域と一緒に頑張って50周年を盛り上げていこうということで今日の熟議を行っていく。

熟議は初めてのことで記念すべき第1回目の熟議である。タイムキーパーも務めながら行うのでよろしくお願いする。

2 熟議Ⅰ「50周年記念事業骨子案と貯水槽壁画のペンキ塗り直し」

(1) 50周年記念事業骨子案 説明：セレモニー部長

令和4年度に創立50周年を迎えるにあたり、記念事業を通して児童生徒が自ら創立50周年を祝おうとすることが大切であると考えた。この事業を児童生徒の生活のテーマとして年間指導計画に位置付けることが良いと考え、学校目標の「仲間とともに今を主体的に」を達成することに繋げようと考えた。

また、この事業に取り組む児童生徒を、教職員、保護者、地域の皆様が連携・協働して支援することで、新しい学習指導要領が求める社会に開かれた教育課程の実現に繋げようと考え、本事業のテーマを「仲間とともに祝おう50周年～学校・保護者・地域との連携・協働を通して～」と設定した。

具体的には、令和3年度から2年間にわたり、50周年記念事業として地域連携・地域交流・地域貢献の活動に取り組む。学校全体での活動は、創立30周年で手掛けた太田地区貯水槽壁画の塗り直しを行う。

学部毎の活動は、今回の熟議を経て今年度中に決める予定である。組織、業務分担、推進計画、予算案については資料のとおりであり、今後更に精査して今年度内に大綱案を作成予定である。



【質疑及び提言】

◎ F 評議員

50周年の横断幕作成を前向きに考えたい。児童生徒や保護者の士気が上がる。2月までに横断幕の見積もりをとるので、次回の第3回学校評議委員会で見積もりを基に皆さんで協議したい。(参考までに、30周年の時に使った横断幕を掲げて披露した。)

◎ G 評議員

今年度より、道の駅はなまき西南で中・高等部は製品販売、小学部はハロウィンカボチャを展示しているので、全体での柱の取組に加えて、道の駅はなまき西南への販売や作品展示を取り入れたらどうか。

◎ D 評議員

前にも話したが、子ども達が直接販売に立ち会って体験してもらうこと、花巻清風のPRをすることは良いことではないか。道の駅イベントとして販売会を行ってはどうか検討してほしい。土日だと客が多く、学校は休みで大変だろうし、コロナ禍でもあるので、まずは平日に販売会をするのはどうか。本校の製品販売会を単独で行っても良いのではないか。

◎ C 評議員

生徒が道の駅の販売に一生懸命取り組んでいるということ自体が良いことである。実際に体験、実践をするのは賛成である。土日は地域の方々が様々イベントに関わる合間の平日にじっくりお客様とやりとりできると良いのではないか。道の駅に太田にある花巻清風が関わってくれることはとても大事なことである。

◎ G 評議員

学校評議員から前向きなお話を頂いたが、学校側としても大丈夫か。全体の柱に、道の駅を追加することについて大丈夫か。

◎ 学校職員（セレモニー部長）

既に動いていることなので、大丈夫である。(ほか、学校職員同意)

(2) 貯水槽壁画のペンキ塗り直し

◎ G 評議員

地域の関係者の方に窓口として、どなたかお願いしたいが。

◎ C 評議員

私がやる。予算や日程等の調整していただく方も決めている。
(拍手で承認)

◎ G 評議員

P T A・同窓会（現高3）関係者の方に窓口として、どなたかお願いしたいが。



◎ F 評議員

PTA 役員やそれ以外の方にも声をかけて協力体制を作りたい。何らかの形で参加して取り組みたい。PTA 及び同窓生（現高3）への声かけの窓口は、私がやる。（拍手で承認）

◎ 学校職員（セレモニー部長）

ペンキの塗り直しをどの時期に取り組むかは、現在校内で調整中である。

◎ C 評議員

時期は地域の方の農作業の仕事もあるので、前回は参考に学校と相談しながら調整する。

3 熟議Ⅱ「各学部の50周年記念事業の取組」

(1) 小学部から（小学部副主事 兼 地域連携担当）

提案内容：低学団「ハロウィンカボチャをつくろう（道の駅に作品展示）」

「道の駅に行こう（ハロウィンカボチャの見学、買い物）」

「りんご狩りをしよう」

高学団「りんご狩り」、「りんごパーティー」、「クubb（KUBB）」

学校評議員さんの協力を得て、昨年度からりんご狩り等の取組をしている。ハロウィンカボチャもご厚意で提供いただき、昨年度は、こたままつりの際に校内展示した。今年度は、道の駅にハロウィンカボチャを展示することができた。子ども達は、りんごやかぼちゃの色など身近に感じることができて成長に繋がっている。来年度もりんごとカボチャに関わる活動をしていきたい思いが強くある。

低学団全員で取り組むと人数が多くなる可能性があるが、個数は足りるのか心配している。りんごのように1個につき幾らかお支払いして対応することになるのか、今年同様に来年も道の駅で展示させてもらえるか、個数が多くなっても大丈夫か。

高学団はりんご狩り、りんごパーティー、クubbももしかしたらできるのかなと相談している。体育等の時間に地域の方と一緒に世代間交流を図ってほしい。

◎ E 評議員

ハロウィンカボチャは子ども達が自主的に活動して大人になった時、「この地域でこんなことをやったよ」と言ってもらえるきっかけになればよいと思って、太田学童クラブと支援学校に提供している。カボチャの数は大丈夫だ。



こういった活動に賛同してもらえる仲間を増やして地域の方と一緒に協力できるといい。太田生きがい倶楽部の方など世代間交流などお互いに交流してほしい。以前、学童クラブと野菜の苗を植えて育ててお好み焼きを作ったことがあった。

コロナが落ち着いたら、子ども達が参画できる形で、かぼちゃ作りやクubbで世代間交流を進められたらいい。

◎ D 評議員

カボチャ展示のお陰で殺風景な道の駅の待合室が華やかになった。お客様に喜んでいただけて感謝している。ハロウィン企画やクubb道の駅長杯など、子ども達が関わってやって良かったということに繋がるようにどんどん道の駅を利用し活用してほしい。

(2) 中学部から (中学部副主事 兼 地域連携担当)

提案内容：「かあちゃん市の内容拡大 (かあちゃん達と一緒に野菜を育て、その野菜を調理等)
「30周年記念で植えたあじさいの手入れ活動と新たな植樹」
「道の駅西南にプランターに植えた花を飾る (岩手国体のイメージ)」

本校はどの学部も年間指導計画・題材一覧マップを作成し、生活のテーマとして学校行事、学部行事が組まれて、生活のテーマに沿って日々学習をしている(資料参照)。生活のテーマが隙間なく入ってきているので、これを見ながら50周年の取組をどう取り入れるのか検討した。現在のテーマを組み合わせたり、内容を見直したり、発展させたものを地域の方々、保護者の方々と共に取り組んでいきたいと考え、現在3つの案に絞った。

かあちゃん市の内容拡大では、総合学習のふれあいタイムの学習(畑の活動)にかあちゃん達を招いて一緒に野菜を作り、収穫した野菜を使って調理活動をする。校内実習の内容を見直し、かあちゃん達が道の駅に製品を出しているなので、そのお手伝いをする。学部主事と副主事で、「道の駅に出展する製品の陳列をする、可能であれば販売活動をすることができるのではないか」と今後検討したいと話合っている。

30周年記念で植えたあじさいの手入れ活動と新たな植樹が現在は途絶えている。常に綺麗に保つための手入れが難しく、継続困難だったようである。先輩方が残したものなので、可能な範囲で中学部で取り組めないかという意見が出た。

時期を決めて、道の駅西南にプランターに植えた花を飾る。学校の周年行事で取り組むのであれば、折角なので、人の目に届くような場所に飾ると良いのではないかという意見が出た。

以上、どのような形で地域の方や保護者と関われるか、経費、実施時期が課題である。

◎ G評議員

かあちゃん市の内容拡大は“リプレース”になる。スクラップ&ビルドは、捨てる、新しいものを作るのでかなり負担感がある。リプレースは置き換えるという意味。内容を拡大していく。かあちゃん市は今までやってきたことのベースがあるので取り組みやすい。

◎ C評議員

かあちゃん市の婦人部の方々と一緒に野菜を育てるなどやっていくのが良いと思う。地域のコミュニティでできることがあれば協力したい。

◎ D評議員

婦人部にプランターを出して貰っているが、少ない状態なので、清風支援学校に出して貰えたと華やかになって大変ありがたい。

◎ 学校職員 (セレモニー部長)

経費の件については、50周年事業の予備費で検討していく。

◎ 学校職員 (中学部主事)

どういう形でやりやすくできるか考えている。道の駅はなまき西南の販売についてありがたい話を頂いた。これまで校内で完結していたものを、自分達で作ったものを道の駅に納品して販売をするなどより社会の中で経験させて頂ける有り難いアイデアを頂いたので中学部で検討したい。

◎ G評議員

テーマそのものを発展させていくことが取組の一番の近道、リプレースになる。

◎ F 評議員

あじさいの取組をぜひ行ってほしい。私は花が好きだ。あじさいは綺麗だし育てやすいので継続してほしい。子ども達が世話をしたことを何年か後に校舎を訪れたときに親子で思い出話ができるように気楽に親子レクや PTA 花壇整備などと絡めて取り組めないか検討してほしい。

(3) 高等部から (高等部副主事 兼 地域連携担当)

提案内容：出張清掃活動、異世代交流 (太田保育園、西南デイサービスセンター等)

出張清掃活動は、作業学習の一環として環境整備班が毎年取り組んでいる。太田小学校、太田地区社会体育館、コミュニティセンターに出向いて清掃している。例えば、清掃してほしい所が地域の中にあれば地域の方と一緒に清掃活動できないか。

異世代交流については、毎年高等部 2 年生が 2 グループに分かれて行っている。太田保育園や西南デイサービスセンターに出向いて、両施設とも歌やダンスに取り組んでいる。これに代わる交流があれば意見を頂きたい。

道の駅はなまき西南の展示販売については、校内実習の最終日に道の駅で販売できないか計画しようとしたことがある。環境整備班が道の駅のトイレ掃除をさせてもらうなど関わることをできないかと考えていたがどちらもコロナ禍で断念した。製品納入は職員が行っているが、今年度内に生徒が関わることをできないか検討している。

◎ G 評議員

高等部では、道の駅はなまき西南“特設販売会”について検討したのか。今までやってきた内容をリプレイスできないか、可能性を考えていきたい。

◎ 学校職員 (高等部副主事 兼 地域連携担当)

50 周年に関わる事業としての販売会については検討したことがないが、校内実習などの学習の中で取り組めないかは学年の中で出た。現在、高等部で販売をしているのは、花巻まつり、こたままつり、ふれあい文化祭、3つの高校の文化祭での販売がある。高校の文化祭での販売は作品展示のみにする等の調整は可能である。

◎ 学校職員 (高等部主事)

どこかの販売会を置き換えることは可能である。学部で検討したい。

◎ D 評議員

日程は、物が揃う時期で、季節や学校事情に合わせて検討する。

◎ F 評議員

道の駅に製品を置いてもらえることは有り難いことだと考える。先生方は大変だろうが好機を逃さないで頑張っていたきたい。だあすこに卒業生が就職している。いずれ、道の駅はなまき西南に実習をお願いして、ゆくゆくは就職させて貰えるような関係になれるように P T A や同窓会からも応援していけるとよい。

◎ 学校職員 (セレモニー部長)

道の駅にいらっしゃるお客様や社員等働いている人達の年代はどのようになっているか。販売活動と共に異世代交流として生徒の持っている得意なことで自然に取り組めて繰り返し関わりがもてるよう検討していけるとよいと考えているのでお聞きしたい。

◎ D 評議員

お客様は、小さい子どもから高年齢の方まで幅広い。勤めている人は、40~60 歳代である。

◎ G 評議員

作業製品の納入を今後生徒自身で行う予定はあるのか。また、生徒は自分達が作った製品を道の駅で展示販売していることを知っているのか。直接生徒が社会と接する場なので、今後積極的に取り入れてもらえたらと思う。

◎ 学校職員（高等部副主事 兼 地域連携担当）

生徒は 11 月、12 月あたりに各班からピックアップして納品にいけるとよいと考えている。生徒には「道の駅で販売しているのでがんばろう」と話しているので、意識している生徒はいると思う。

◎ E 評議員

欠品状態が続いていることについて、学校のカリキュラムもあるから、期間絞って製品を置くなど常設でなく特設にしてはどうか。以前、太田地区の方々を対象として陶芸教室をやっていたと聞いたことがあるが、地域の方の希望舎を募って焼き物を作って生徒の作品と一緒に展示販売する等しても良いのではないかと。異世代交流も含まれて良い活動だと思うがどうか。

◎ 学校職員（セレモニー部長）

地域連携主任と相談している中でその件についても話をしてきたところである。道の駅はなまき西南はスタートしたばかりで、どういう形がより良いかまだ結論を出すには次期尚早と考える。過去に陶芸教室などに取り組んだ実績があるので、その仕組みを今の学校のシステムに合わせて検討していけばやれなくはないと窯を担当しているものとして考えている。

◎ D 評議員

欠品状態であることは気になっていたが売れることが大事ではなく、製品がない時は学校の取組等を PR するスペースとして使ってほしい、活用してほしいと考えている。その方が太田地区の方やお客様に清風支援学校のことが広く伝わるのではないかと考える。

◎ G 評議員

道の駅は年度途中にあたふたしてきちっとした対応ができない状況でスタートしたことから欠品等の問題も出てきたことと思う。今、大変示唆に富んだ意見を頂戴してきたので、是非今回の意見を参考にして次年度のカリキュラムに活かしてほしい。作業学習でいうと、道の駅を中核に据えたテーマで高等部が取り組めば年間を通じて欠品状態が少なくなるのではないかと。年間のコンセプトを考える際に、会社のようなイメージでどのようにしたらうまく回せるか、社会に出たようなつもりで会社の中での取組を想定して生徒と先生方が一緒になって製品作りに励むといいのではないかと。

クッブ (KUBB) 交流の写真を見たが、先生方の表情がすごい生き生きしていた。ああいう笑顔を校内で見せたことはないのではないかと。是非、生徒にも笑顔いっぱいの生活を実現してほしい。高等部生徒であれば真剣になってチーム作ってできるのではないかと。



◎ C 評議員

職員、児童生徒、保護者などと私達高齢者クラスと正に世代間交流の様々な交流ができる。太田のクッブ協会も協力は惜しまないと言っている。

◎ F 評議員

高等部 3 年の保護者で今年度は PTA で何もできなかったもので、卒業までに何かやりたいと考えて何人かで相談している。次年度からでも、高等部の提案の太田保育園との異世代交流などの時に保護者も一緒に入れていただいて交流できるのではないかと話を聞いて考えた。

4 提言

【A評議員】

- ・熱心な議論だったので、50周年が素晴らしいものになるとイメージが湧いてきた。是非反映して進めていただければと思う。
- ・リプレイスという言葉がでたが、正にお話があった通りである。コミュニティ・スクールの趣旨そのものが、今やっていることに何か乗っけるということではなくて、正に今頑張っていることに、地域、コミュニティの視点をちょっと入れてみる。それを横串で通してみる。そういう作業が大事だという話が前回もあった。是非リプレイス精神で、大変だと思うと楽しくならないので、是非地域連携主任も「楽しく」と仰っていたように楽しく取り組んで進めていってほしい。
- ・50周年事業は、かなり大変な事業なので、周年事業を終わって一息つくのではなく、半世紀を迎えるということはとても大きなことなので、この後の100年、半世紀に向けた新しい贈り物を残せるようなにも取り組んでいけるという考え方をした方がよい。
- ・思いつきで恐縮だが、例えば、道の駅とコラボ商品などが誕生してそれがその後の主力製品になっていくとか、地元の保育園の方と記念の歌やショーなど未来志向で進めていくことが大切である。
- ・子ども達だけではなく、保護者さんぐるみで何かイベントをしたら親子で買い物をしてもらおうとかできれば正にwin-winになれるのではないかと、異世代交流に大学生も入れて貰っても良いのではないかと。県立大生は地域貢献意識が高い学生達なので、高校生はちょっと上のお兄さんお姉さん世代に触れあうことがとても刺激になったりするので、そういったことでもお力になれるのなら相談させていただきたい。



【B評議員】

- ・地域と学校の協働活動を学部毎に設定されていった。段階に応じて、社会とのつながりが深まっていく内容だった。小学部はまず接する、中学部は少し拡大していく、高等部はそれらが集約された形になる。小学部は中学部を目指し、中学部は高等部を目指すという流れになっている。
- ・高齢者の方の活用という話が出ていた。高齢者が増えてきているが、熟練した知識や技を持った地域の方が多いという考え方ができる。もっと活用して行ってほしい。そういった地域の方に活動に参加して貰うことでそれが「仲間とともに」になっていく。発達段階に応じて、仲間とともにが増えていく様子を見させていただいた。
- ・最終的には、仲間とともにが沢山のネットワーク作りにつながると子ども達のためになる。周知になり、情報提供になり、あわよくば子ども達の雇用を進めている企業にまで、この活動を発信していくことが将来の子ども達を育むことにもつながる。

【C評議員】

- ・小、中、高等部で計画していることに協力していきたい。
- ・太田地域の人達には50年前にこの学校を要望して作ったという自覚があるので、地域の方を活用してほしい。
- ・道の駅はなまき西南は、やらなければならないと考えるのではなく、児童生徒の成長のためにうまく活用して行ってほしい。
- ・花巻市の市政懇談会があった。卒業後の進路先の開拓について話をしたい。



【D評議員】

- ・作業製品やハロウィンカボチャで道の駅はなまき西南を盛り上げてくれて感謝している。
- ・地域交流の場として、地元子ども達や異世代と交流しながら道の駅はなまき西南を盛りあげてほしい。

【E評議員】

- ・太田の人達は、40年近く不在にして久しぶりに戻ってきたよそ者状態の私を優しく受け入れてくれた。非常に良い地域である。
- ・若い方は仕事していて昼はいない。日中いるのは高齢者である。高齢者は時代を築いてきた方で智慧も工夫もある人達である。生きがい倶楽部に入れていただいて理解し勉強させてもらった。
- ・地域として子ども達と高齢者が交流して活性化していることをアピールできれば、外に向かって発信できれば、大きな財産になると感じている。私にできることがあれば、声をかけてほしい。

【F評議員】

- ・せっかくの道の駅はなまき西南との関わりを継続して行ってほしい。先生方も大変だろうけれど、頑張ってお実習や就職できる場にしてほしい、そうやってほしいと親としての願い、夢を持っている。
- ・地域の皆様が歓迎してくださっているというこんな有り難いことはない。そういったことをPTAの方々に伝えたい。
- ・地域の方々に協力していただいていることや就労に関して、小・中学部の親さんはまだまだピンとこないかも知れないので、これからもちょっとずつ啓発していかねばならない。先生方の中にもピンときてない方もいるかも知れない。卒業生と卒業を迎える親として、縦の繋がり、横の繋がりを大切にしてい関係を作っていきたい。

【G評議員】

- ・地域連携主任のピンチヒッターとして初めてファシリテーターをやらせていただいて、拙いファシリテーターでご迷惑をお掛けしたが、非常に活発で前向きな協議ができて、深まった部分も沢山あった気がする。もっと先生方からネガティブな発言が出てくるかと思っていたが、この場では前向きな発言であって良かった。ただ終わった後、陰の方でネガティブな会話がそちらこちらで起きなければいいかと心配している。是非みんなで前向きに取り組んで行ってほしい。
- ・前回3つ話した中の1つ目、次年度からコミュニティ・スクールを始めてほしいということについては来年度から始めることになったので大変嬉しく思う。
- ・2つ目は、幹事会、経営委員会を中核に据えた学校経営を進めることについて、これもギクシャクしている部分もあるようだが意思統一されつつあるのかなど、是非、継続発展させるようにしてほしい。
- ・3つ目は、ラグビーに例えて地域連携主任がボールを持っていると表現し、皆でサポートしてほしいと話したことについて、大分サポーターは増えているようだが、まだまだ先生方の協力体制が足りないと思う。
- ・地域連携主任に限らず、例えば高等部は副主事が道の駅の窓口になっているが、どうも担当を決めるとどうしても担当者任せになってしまう。その人一人に責任を負わせてしまうような風潮はないだろうか。
- ・高等部副主事が高等部で提案したら、ここにいる高等部の先生方は一緒になって皆をリードして行ってほしい。それは高等部に限ったことではない。ここにいるメンバーは全体を引っ張っていく立場にある。

- ・今日は50周年事業の骨格、輪郭がかなり明確になってきたので、体勢、スクラムを組んで頑張っていてほしい。今日は手応えを感じた会議だった。

5 助言

【地域学校連携担当主任指導主事】

- ・貴重な機会に立ち合わせて頂きありがたかった。今日、熟議をやるのは初めてと聞いていた。初めてだと思えない、素晴らしい熟議だった。
- ・地域の方々のご協力が素晴らしい。全国的にも地域の方々からこういうことをやってみたらどうかという意見が出るが、その後「あとは学校で検討してください。」というパターンが多い。今日は、冒頭から横断幕の話の時にF評議員から見積もりを次回までにもってくるという話があった。
- ・模造紙にどんどん役割分担が書き込まれていって、模造紙がどんどん移動して張られていった。とても初めての熟議とは思えない素晴らしい熟議だった。
- ・県内のコミュニティ・スクールは、4月より西和賀高校が行っている。義務化は令和4年度から各校で導入の検討や準備が進められようとしている所である。
- ・花巻清風支援学校は、長年に渡って地域と連携して教育活動を展開していると県の担当者から聞いてきたが、正にその通りだった。コミュニティ・スクールというのは、学校運営協議会という組織を置いた学校のことである。
- ・学校運営協議会では、学校や地域の方が目標や課題を共有し、子どもたちのために「仲間とともに今を主体的に」の目標のために、これまでやってきている活動を見直し、修正し、加えたり、時には精選したりすることである。
- ・リプレイスという言葉が出てきたが正にそういうことをやっていくことである。
- ・今日の内容は正に学校運営協議会だった。学校運営協議会を置くってなると、先生方の負担感を増すのではないかとよく聞かれる。今日熟議をやってみてどうだったでしょうか。先生方に聞いてみたいと思うが、「大変だな」と思われたのか、「そうか、そういう風にして協力して貰えるのかなとヒントを貰えた」、「見通しが持てた」のではないかと、そういう感触を得たと思う。
- ・もしかしたら、やらなくていいことや余計な心配がなくなったんじゃないか、働き方改革にもつながっていくものだと思う。
- ・学校運営協議会の組織を置くことで、学校は地域の理解を得て、後押しを頂いたり、お墨付きを頂いて教育活動を展開することができるようになる。特別支援学校では、就労への繋ぎや人との関わり、体験活動の充実が期待される。
- ・非常時においてもどんな児童生徒が通っているのか地域の方が理解して頂くことで非常時でも慌てずに対応して頂けると期待されている。
- ・県内の特別支援学校でコミュニティ・スクール導入に手をあげたのは、花巻清風支援学校が第1号である。県内のモデルになってほしいと期待している。是非とも先生方にはプレッシャーを与えるつもりはないが、楽しみながらこんな風にできるんだと思いながら50周年における取組を実践して頂きたい。
- ・今年度末の県発表会の出番は既に決まっているが、来年度は是非とも花巻清風の実践を発表して頂きたいと期待している。花巻清風支援の取組に県として今後も注目していきたいし、学ばせて頂きたい。本日はありがとうございました。

6 閉会挨拶

【校長】

- ・本日はご多用のところ本当にありがとうございました。たくさんのご提言とご助言を頂いた。
- ・何よりも、太田地区は人材の宝庫であり、地域資源が沢山あると感じた。
- ・地域の皆さんが、学校のこと、子ども達のことを想って協力して頂ける心が溢れているということに改めて強く感じて、本当に嬉しく頼もしく感じた。
- ・学校職員が、一人一人が楽しみながらコミュニティ・スクールの立ち上げに関わっていきたい。今後それぞれが主体的に取り組んでいけるように、職員会議等で1人1人の理解と浸透を図っていく。本当に今日はありがとうございました。

以上